



秋から冬にかけての対策で

イネ縞葉枯病の発生拡大を防ごう！

ポイント ヒメトビウンカの「冬場のエサとすみか」をなくす

- ① 再生稲（ひこばえ）は、すみやかにかつ丁寧に耕起しましょう。
- ② 稲刈り後、畦畔や土手など周辺のイネ科雑草は除草しましょう。

★ イネ縞葉枯病とは ★

- ・イネ縞葉枯病は、ウイルスを持ったヒメトビウンカにより広がります。
- ・ウイルス病なので治す薬剤はなく、水稻は生育が妨げられ、減収します。
- ・ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草で越冬します。

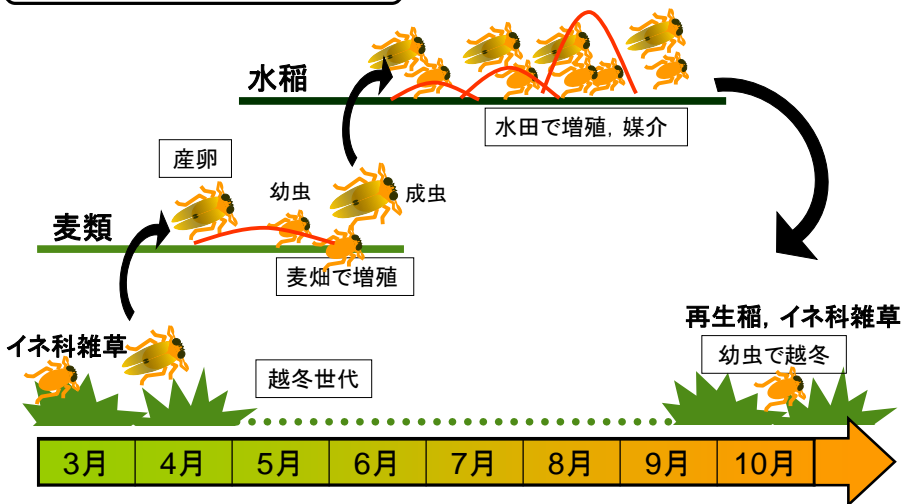
こんな症状、ありませんか？

穂の不稔

葉の黄化

再生稲

媒介虫ヒメトビウンカの生態



イネ縞葉枯病防除マニュアル(茨城県版)もご確認ください！

(茨城県農業総合センター農業研究所 令和3年5月改定)

https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual.pdf



【発行】 県南地域イネ縞葉枯病対策連絡協議会

事務局：茨城県県南農林事務所 農業振興課 (土浦市真鍋5丁目17番26号)

※ 技術の詳細は、最寄りの農業改良普及センターにご相談ください。



(令和5年10月作成)

主な抵抗性品種とその特徴

	品種名	早晩生	特徴
主食用米	一番星	早生の早	高温耐性を持ち、白未熟粒が発生しにくい。本県における成熟期は5月上旬移植で、8月中下旬頃。県オリジナル品種。
	ふくまるSL	早生の晩	「コシヒカリ」よりも成熟期は7日～10日早く、収量は、適切な肥培管理により約2割増収する。県オリジナル品種「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与。
	にじのきらめき	中生	高温耐性は「やや強」で、白未熟粒が発生しにくい。本県における成熟期は「コシヒカリ」よりも3日～5日遅く、収量は、多肥栽培により約1～3割増収する。
	あさひの夢	晩生	本県における成熟期は5月上旬移植で、9月中旬頃。収量は、適切な肥培管理により「コシヒカリ」よりも約2割増収する。
飼料用米	夢あおば	早生	飼料用・WCS兼用品種。4月下旬移植において、成熟期は9月中旬頃。種が落ちにくく、とても倒れにくい。
	月の光	晩生	5月中下旬移植において、成熟期は10月上旬頃。種が落ちにくく、倒れにくい。